

環境モニタリングの結果及び平成 30 年度上半期の状況一覧表

調査目的	調査名	調査項目	基準等	調査地点数	基準等超過項目			基準等超過項目の測定値(最小～最大)・基準値超過地点数				平成30年度上期の状況	
					全期間(～H29年度)	平成29年度下期	平成30年度上期	全期間(～H29年度)	平成29年度下期	平成30年度上期	基準値等		単位
2.1生活環境 保全上の支障の 有無の把握	大気環境調査	ジクロロメタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン	大気環境基準	2地点	超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	-	-	環境基準が定められている4物質、指針値を定めている6物質全てで基準値に適合していた。
		塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、アクリロニトリル、クロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物	指針値		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	-	-	
		硫化水素、メタン、アンモニア	目標値		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	-	-	
	硫化水素連続調査	硫化水素	目標値	2地点	硫化水素	超過なし	超過なし	0.0002未満～1.105	0.0002未満	0.0002未満	0.02未満	ppm	目標値に適合していた。
	放流水水質調査	総水銀(水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物)、鉛及びその化合物、有機燐化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、ほう素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、アンモニア等(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)、水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)、フェノール含有量、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、クロム含有量、大腸菌群数、ダイオキシン類	放流水基準	1地点	大腸菌群数	超過なし	超過なし	0.1～16300	8～32	73～100	3000以下	個/cm <sup>3</sup>	放流水の水質は、全ての項目で放流水基準に適合していた。 過去に放流水基準を超過したことがある大腸菌群数についても、基準に適合していた。
	河川水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン、pH、BOD、SS、溶存酸素量、大腸菌群数	環境基準 上下流の比較	2地点	上下流で同様の値を示す	上下流で同様の値を示す	BOD、溶存酸素量	-	-	-	-	-	上流側と下流側で同程度の値を示し、放流水が荒川の水質に及ぼす影響は認められない。

2.2浸透水等の 地下水の拡散 又はその おそれの把握	浸透水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン、BOD	地下水等 検査項目基準	11地点	鉛	超過なし	超過なし	0.002未満～0.039(8地点)	0.002未満～0.002	0.002未満～0.006	0.01以下	mg/L	1,4-ジオキサン、BODが基準を超過している地点があり、変動はみられるものの、上昇傾向は認められない。
					砒素	超過なし	超過なし	0.001未満～0.069(3地点)	0.001未満～0.014(2地点)	0.001未満～0.007	0.01以下		
					トリクロロエチレン	超過なし	超過なし	0.002未満～0.019(1地点)	-	0.002未満	0.01以下		
					ベンゼン	超過なし	超過なし	0.001未満～0.018(4地点)	0.001未満～0.007	0.001未満～0.005	0.01以下		
					1,4-ジオキサン	1,4-ジオキサン	1,4-ジオキサン	0.005未満～0.31(5地点)	0.005未満～0.15(1地点)	0.005未満～0.065(1地点)	0.05以下		
					塩化ビニルモノマー	超過なし	超過なし	0.0002未満～0.012(1地点)	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下		
			BOD	BOD	BOD	1.2～160(13地点)	6.5～56(8地点)	9.3～45(8地点)	20以下				
			ほう素	ほう素	ほう素	0.02～31(11地点)	0.02～14(6地点)	0.02～4.8(5地点)	1以下	mg/L	ほう素、ふっ素が基準を超過する地点があり、変動はみられるものの、上昇傾向は認められない。		
			ふっ素	ふっ素	ふっ素	0.08未満～5.6(11地点)	0.11～2.7(6地点)	0.12～1.8(6地点)	0.8以下				
			ダイオキシン類	環境基準		ダイオキシン類	ダイオキシン類	ダイオキシン類	0.037～110(7地点)	0.049～21(1地点)	0.032～3.7(1地点)	1以下	pg-TEQ/L
地下水水質調査	地下水等 検査項目基準	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン、BOD	10地点	鉛	超過なし	超過なし	0.002未満～0.083(6地点)	0.002未満～0.004	0.002未満～0.003	0.01以下	mg/L	8月に1地点(H16-15)のみでBODの基準を超過した。	
				砒素	超過なし	超過なし	0.001未満～0.068(1地点)	0.001未満～0.006	0.001未満～0.008	0.01以下			
				BOD	超過なし	BOD	0.5未満～23(2地点)	0.5未満～15	0.5未満～27(1地点)	20以下			
		地下水環境基準		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	-	-	基準に適合していた。	
		環境基準		ダイオキシン類	ダイオキシン類	超過なし	0.062～2.9(3地点)	0.070～2.9(1地点)	0.071～0.99	1以下	pg-TEQ/L	基準に適合していた。	

調査目的	調査名	調査項目	基準	調査地点数	平成30年度上期の状況
2.3処分場の状況の把握	発生ガス等調査	発生ガス(発生ガス量、メタン、二酸化炭素、硫化水素、酸素、孔内温度(管頭下1m)、気象(気温、気圧))	-	17地点	硫化水素・メタン:主に横ばい～減少傾向。数値の変動が大きい地点もあるが、これまでの変動の範囲内。 発生ガス量:主に横ばい傾向、1地点で数値が変動するが、これまでの変動の範囲内。 その他:顕著な変化なし
		浸透水(電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、水位、pH)	-	13地点	硫酸イオン:主に横ばい～低下傾向。以前から高い値を示しているNo.5blは同様に高い値を示すものの、変動の範囲内。 塩化物イオン:主に低下～横ばい傾向。
	下流地下水状況調査	電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、水位、pH	-	8地点	硫酸イオン、塩化物イオン:横ばい～低下傾向。
	放流水状況調査	電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、pH	-	1地点	顕著な変化なし
	地中温度調査	鉛直方向1m毎の温度、帯水域の温度	-	22地点	緩やかな低下傾向。埋立区域外との差も小さくなってきている。
	地下水位調査	地下水位、降雨量	-	22地点	変動の幅に顕著な変化なし
	多機能性覆土状況調査	硫化水素	-	26地点	定量下限値未満で変化なし
	地表ガス調査	硫化水素	-	5地点	定量下限値未満で変化なし
パイオモニタリング調査	AOD試験による半数致死濃度	指針値 上下流の比較	2地点	すべての測定時期でAOD値が400%以上であり、上下流の差は認められない。	

凡例

- 地下水等検査項目基準を超過したもの
- 環境基準を超過したもの
- 目標値を超過したもの
- 赤字表記 基準・目標値等を超過する値
- (○地点) 基準等を超過した地点数

※ 全期間とは、測定開始から平成 29 年度下期までの期間を指す。